

27 白銀堂由来（口）

鹿児島島の侍からイチマンマunker（糸満マunker）

という人がですね、金を借りたわけですよ。金を借りて、

「まあ、とにかくいつかは払います」ということを言っただけでも、なかなか払わないもんで、払わないもんだから、この鹿児島島の侍がですね、この人を斬ろうとしたと。糸満マunkerをね。そしたら、その人が、『意地ぬんじらー手引け、手ぬんじらー意地引け』

（短気にはやって殺してやろうと思った時には、心を休めて手を引きなさい。短気を起こすな。短気は損気だからやめなさい）と、まあそういうことを言うたので、「じゃあ、あの、いつまでに私は返しますから」ということを言うたそうですよね。そうしたら、その人が、
「じゃ、そうして下さいよ」ということで、手を引いたと。

も代えることのできないありがたいことであつたと。
それですね、もうそれで、明くる年沖繩に来てですね、約束で、このマunkerは、
「まあ、私はあの時には助けていただきました。それだけの金子はね、用意してありますからどうぞ受け取って下さい」とまあ、出したわけですよ。そしたら、この薩摩の侍はですね、

「いやいや、これはあなたのお陰様で、あなたがあの時にああいうことを言わなければ、既に私は自分の母親も自分の家内も一刀のもとに切り殺しておつたんだけれども、あなたがああいうことを言ったので、あなたは命の恩人である。いや、この金はまだ私はいりませんから、どうぞ収めて下さい」とこういう言い方をするさね。そしたら、このマunkerという人はね、

「いやいや、これはもうあなたとね、約束ばかり違えてどうもすみません。とにかくこの金で私は助かりましたから、どうぞ受け取って下さい」。

「いや、取らない」。

まあ、これですね、結局この金はですね、もうどつちも取らないもんだから、こりやもう、『意地ぬんじ

そうして、鹿児島ではですね、この主人がですね、沖繩へ行つてゐるわけですよ。その間にはですね、姑がですね、この嫁をそのまま一人で寝かせたら大変だから、間男が来たら大変だから、これは何とか覚悟しなけりやいかんからと、男装でもつてですね、男装でもつて添い寝をしていつもやつておつたそうですよね。

それで、沖繩での用事が終わつてこの人は帰つてきたわけですよ。帰つて来たら、やつぱしこの、添い寝をしてゐるもんだから、これはもう、間男をしているに違いないと思つてですね、やつぱしその、一刀のもとに切り捨てようとしたけれども、しかしながら、あのマunkerが言うた言葉にね、『意地ぬんじらー手引け、手ぬんじらー意地引け』と、ああいうことを言つておつたんだが、これはやつぱし意味があるんじゃないかと、こういうことで、手を引いて、やらなかつたそうですよね。そして、結局まあ、明かりをつけて見ると、自分の母親が男装して寝ておつたと。はあ、これはやつぱしあのマunkerがああいうことを言わなければ、私はもう既に殺しておつた。はあ、このマunkerのあれだけのあの言葉というのは、もうこりや天地に

らー手引け、手ぬんじらー意地引け』と、あれだけの名文句を残したお金で、子々孫々に伝えても恥ずかしくないところのあれだから、これはここで祀つておこうというのがだいたい筋道です。

字照屋 前川次郎助

